

# NAPA User Seminar Japan 2025

## Shaping the Future of Ship Design

拝啓

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別なるご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

下記のとおり「NAPA User Seminar Japan 2025」を開催いたします。本年も、造船設計に携わる皆さまにとって、価値ある議論と気づきの場をご提供できれば幸いです。

今年のテーマは「Shaping the Future of Ship Design」です。急速に変化する海事産業の中で、未来の船舶設計のあり方を、実践的な知見と議論を通じて皆さまと共に形づくっていく—そんな想いを込めています。

現在、造船業界ではカーボンニュートラルの実現に向けた取り組みが加速しており、風力推進・代替燃料・自律運航船など、新たな技術や規則への対応が求められています。一方で、人材不足や少子化といった構造的な課題も深刻化しています。こうした状況の中で持続可能な船造りを実現するには、過去の延長線上にない視点やアプローチが不可欠です。AIをはじめとするデジタル技術の活用は、限られたリソースの中で高品質な設計を実現するための重要な鍵となり得る可能性を秘めています。

本セミナーでは、NAPAの最新技術や業界各社の実践、紆余曲折のプロセスから得られた知見を共有いただきます。日々の業務に役立つ具体的なヒントや、未来を切り開く発想に出会えることを願っております。NAPA Familyの皆さまと共に、未来を考える2日間となることを楽しみにしております。ぜひご参加賜りますようお願い申し上げます。

敬具

### 日時

2025年10月6日(月) 10:30 ~ 17:00 (受付開始: 10:00)  
7日(火) 10:00 ~ 16:40 (受付開始: 09:30)

※初日の09:00~10:00にWelcome Coffee Timeを予定しております。

※初日の18:00から懇親会(無料)を予定しております。

### 場所

オリエンタルホテル神戸(神戸市・三宮駅徒歩7分)

※詳細は本プログラム9ページをご参照下さい。

### 対象

設計用NAPAユーザー、またはNAPA製品に興味をお持ちの方

※同業他社様・個人のお客様からのお申し込みはご遠慮頂いております。

### 定員

約100名

※同一機関から多数のお申し込みを頂いた場合、人数調整をお願いすることがございます。

### 参加費

無料

### 申込方法

案内メールに記載の申し込みフォームよりお申し込みください

※各会社・組織の代表者の方がまとめてお願い致します。

### 申込期限

2025年9月19日(金)

### お問合せ先

E-mail: Customer.Service@napa.fi

Tel: 078-325-2160

### 写真撮影

当日はスタッフが写真撮影を行い、弊社の広報活動目的のためにSNS(Facebook, Instagram, LinkedIn)やウェブサイト上で使用させて頂くことがございます。プライバシー保護のため、写真使用媒体への所属組織名・氏名の掲載は致しません。写真の不掲載をご希望の場合は、参加お申し込みフォームにてご連絡ください。



# NAPA User Seminar Japan 2025

## プログラム概要 (1日目)

09:00 ~ 10:00 Welcome Coffee time 4階 BAMBOO ROOM

### 全体講演 会場: 6F ORIENTAL ROOM

10:30

開会挨拶/Words of Welcome

NAPA Ltd. CEO Mikko Kuosa

Shaping the Future of Ship Design

NAPA Ltd. Executive Vice President Mikko Forss

造船市場では、脱炭素化と技術革新への切迫したニーズを背景に、堅調な受注活動が続いています。本プレゼンテーションでは、最新の市場動向とそれが船舶設計に与える影響を考察するとともに、NAPA が革新的な技術を活用して船舶設計の未来をどのように形づくり、市場の需要に応えているかをご紹介します。

11:25 ~ 12:45 昼休憩 (各自)

12:45

【基調講演】

未来を創る : Sustainable Transformation と DX, AI がもたらすイノベーションの力

一般財団法人 日本海事協会 常務理事 開発本部長 有馬 俊朗 様

海事産業は、温室効果ガス排出削減、船舶の更なる安全性向上、船員及び技術者確保といった多面的な且つ喫緊の課題に直面しており、革新的かつ持続可能な制度及び技術の導入と、それを支える設計・運航プロセスの変革が不可欠です。NK では、「良い船・良い運航・良い管理」という三つの視点から、これらの課題に対する実践的な取り組みを推進しています。本講演では、NAPA 社との協業を通じて進めている取り組みを中心に、持続可能な変革 (Sustainable Transformation)、デジタルトランスフォーメーション (DX)、そして生成 AI が、船舶の設計品質の向上、開発期間の短縮、さらには運航効率や安全性の向上にどのように貢献し得るか、具体的な事例を交えてご紹介します。

設計データを活かす、その先へ ~共有型デジタルツインの社会実装に向けた新たなステージ ~

一般財団法人 日本海事協会 デジタルトランスフォーメーションセンター 主管 長 俊寿 様

NAPA Japan 株式会社 遥山 誠

昨年ご紹介した「共有型デジタルツイン」取り組みは、パイロット試験を経て、設計データの活用による実効性と効果を具体的に検証する段階へと進みました。設計と運航のデータをつなぐことで見えてきた新しい可能性や、実装に向けて乗り越えるべき課題についてご紹介します。今後の展開に向けて、多様な立場の方々と一緒に価値を育てていけることを期待しています。

NAPA Studios - プロジェクト事例のご紹介

NAPA Japan 株式会社 代表取締役

兼 NAPA Group, Executive Vice President for NAPA Studios 水谷 直樹

NAPA Studios は、NAPA Group の新しいビジネスラインとして 2024 年に始動しました。NAPA の 35 年以上にわたる船舶設計・運航の支援システムとデジタルソリューションの専門知識、経験、技術資産、ネットワークを活かし、お客様やパートナー様との密接な連携を通じて海事業界の様々な課題の解決やイノベーション促進を支援するための活動をしています。このセミナーでは、最新の NAPA Studios の取り組みやお客様とのプロジェクト成功事例を共有し、NAPA Studios がどのようにお客様のビジネス目標達成に寄与できるかをご紹介します。

最新リリース情報と今後の開発

NAPA Japan 株式会社 古賀 泰宇

NAPA Japan 株式会社 林 普生

NAPA はこれまで、船舶設計の発展と革新をソフトウェアとデジタル技術で支えてきました。カーボンニュートラルや新技術への対応など、大きな変化の中にある造船業界においても、ユーザーの皆さまの声を取り入れながら新機能を開発し、設計の効率化と高度化を追求しています。本講演では、未来の設計プロセスを形にする中核ツールとして進化を続ける NAPA Designer を中心に、最新リリース情報と今後の開発計画をご紹介します。

14:15 ~ 14:35 休憩



## プログラム概要 (1日目 続き)

### 全体講演 会場: 6F ORIENTAL ROOM

14:35

#### 技術のすゝめ@臼杵造船所

株式会社臼杵造船所 設計 DX 推進室 室長 山本 隆史 様  
株式会社臼杵造船所 設計本部 船体設計部 基本設計課 主事 川越 基貴 様  
株式会社臼杵造船所 設計本部 船体設計部 船殻設計課 主事 石黒 雄己 様

新しい技術は、一つひとつ着実に取り入れ、活用していくことで、自社の力になっていきます。弊社では、2014 年に NAPA (NA) を導入して以来、業務に活かしてきました。2020 年には NAPA Steel も導入し、両者のより柔軟な運用を模索しており、近年ようやくその成果が実を結びつつあります。さらに近年では艦装分野においても新たに 3D CAD の導入も進めており、NAPA との相性を確認しながら、より実践的な設計環境の構築を目指しています。こうした大分の、いち中小造船所の取り組みについてご紹介させていただきます。

#### 「可能性 : アンロック」設計会社として NAPA の取り組み

株式会社大鑑設計事務所 コンセプト開発チーム 主任 ロBERT スコチヨ 様

近年モノづくりの設計は陸上や海上を問わず 2D から 3D へと大きく変化しつつあります。作成されるモデルには、機能性、精度、更には作成時数など効率を求められることになってきています。弊社は、造船設計分野で長年の経験と実績を重ねてまいりました。関係する豊富な知識と経験を活かし、将来的にさらなる発展をするため、NAPA の 3D モデルによる設計に可能性を見出して本年から NAPA の導入を決定しました。本講演では、NAPA と共に切り拓く船舶設計の未来と、3D モデリングがどのように新たな可能性をアンロックする(解き放つ)かを発見する機会にご招待いたします。

#### Integrated Naval Architecture (英語講演・和訳付き)

NAPA Ltd. Director, Business Development Jan Furustam

NAPA の船舶設計ソリューションが特に初期設計段階で高く評価されている理由のひとつは、設計プロセスの統合性にあります。NAPA では、単一の 3D モデルを基盤に、必要な計算・解析・最適化を行うための多彩なツールや手法を組み合わせて活用されており、これは海事ソフトウェア業界において他に類を見ない特徴です。

「NAPA Engineer」は、この統合設計の思想をさらに進化させ、最新の技術と設計原則を取り入れることで、より優れたユーザー体験を提供します。本講演では、「NAPA Engineer」の現状について概説するとともに、近い将来における統合型船舶設計の姿を、具体的な事例を交えてご紹介いたします。

#### 生成 AI 時代の船舶設計支援システムのアーキテクチャ構築を目指して

大阪大学 工学研究科 先進海事システムデザイン共同研究講座 特任准教授 一ノ瀬 康雄 様

本年(2025 年)4 月に開設された大阪大学工学研究科先進海事システムデザイン共同研究講座(阪大 OCEANS)では、生成 AI による設計支援システム開発に取り組んでいます。本講演では、現在の生成 AI の設計応用の開発状況について他分野の事例を含めて紹介し、船舶設計における生成 AI の特徴を示した上で、阪大 OCEANS の開発目標を示し、現在の取り組み状況を紹介させていただきます。

17:00

#### 1 日目 閉会

18:00 ~ 20:00 懇親会 (無料) 4 階 BAMBOO ROOM



## プログラム概要 (2日目)

### 分野別ワークショップ A (復原性/流体関連) 会場: 6F ORIENTAL ROOM

10:00

#### セミナー2 日目のご案内

##### AVEVA から NAPA へ復原性計算ツールの移行とその対応

檜垣造船株式会社 設計部 部長 藤田 浩史 様

檜垣造船ではこれまで約 20 年にわたり、船型設計(Lines)、区画定義、復原性計算において AVEVA (旧 TRIBON) を使用してきました。しかし、2023 年に復原性モジュールのサポート終了が発表されたことを受け、NAPA への移行を決定し、2024 年竣工船より NAPA を用いた復原性資料の作成を本格的に開始しました。本プレゼンでは、AVEVA から NAPA への移行プロセスでの対応内容、さらに現在進めている進水計算や LoadingPC とのデータ連携についての取り組みをご紹介します。

##### NAPA の“One Ship Model”設計へのアプローチ

株式会社大島造船所 基本設計部 基本設計 1 課 計算係 中村 龍太郎 様

NAPA は“One Ship Model”による協同設計プラットフォームとして知られるが、日本では“One Ship Model”での運用がまだ広く浸透していない。弊社においても長年“One Ship Model”とはほど遠い NAPA の運用を行っていたが、“One Ship Model”設計の第一歩として Compartment Model と Steel Model の統合を試みた。また、統合モデルを活用しての 3D 設計作業を想定した、将来のモデル管理手法の模索を開始したので、これらの取り組みについて紹介する。さらに、弊社では NAPA 設計データを利用して 3D General Arrangement (3D GA) を作成し、これを用いたフロントローディングの取り組みを進めているので、合わせて紹介する。

##### トリム計算の“ワンボタン化”による省力化と設計の高度化

常石ソリューションズ東京ベイ株式会社 設計部 開発グループ 主管 江川 俊太郎 様

IMO の GHG 排出削減のための中期対策策定により、“船舶の代替燃料化”や“軽荷重量重心に影響する仕様(風力利用補助推進装置など)”の検討ニーズがより一層高まることが予想されます。これらにより、トリム計算のコンディション数が飛躍的に増加するとともに、考慮すべきことも複雑化いたします。負荷が増加・複雑化するトリム計算をワンボタンで実施できる機能をマネージャーにて実現いたしましたので、紹介いたします。時間も手間もかからない上、従来よりも早い段階で全ケースの計算結果を得られますので、より複雑な条件を考慮した最適化や設計値設定が可能となり、省力化のみならず設計高度化にもつながると考えています。

11:20 ~ 12:30 昼休憩 (各自)

12:30

#### ライトニングトーク ※1

##### 1) NAPA Engineer Node Network に期待すること「無双一閃」

日本シッパード株式会社 基本設計部 船体計画 2 グループ 専任課長 谷岡 寿樹 様

##### 2) 函館どつくにおける NAPA の活用 ~Let's Transition IPCA to NAPA ! ~

函館どつく株式会社 船舶設計部 基本設計課 基本設計係 岩淵 雄真 様

##### 3) 新燃料時代における NAPA を活用した基本設計の効率化

常石造船株式会社 設計部 商品企画部 船体計画グループ 芦田 汐理 様

##### 4) NAPA を用いた社内コミュニケーション

旭洋造船株式会社 船体設計部 基本設計課 基本設計係 係長 河野 祐一 様

※1「ライトニング・トーク」とは、5 分程度のミニ・プレゼンテーションの集まりです。ちょっとした改善やアイデアの共有、取り組みの中間報告など、自由なテーマについてプレゼンテーション頂き、お客様の間で情報共有・意見交換を頂くことを意図したコーナーです。



## プログラム概要 (2日目 続き)

<b>分野別ワークショップ A (復原性/流体関連) 会場: 6F ORIENTAL ROOM</b>	
	<p><b>NAPA Designer 及び classic NAPA における新機能開発 (英語講演・和訳付き)</b></p> <p><b>NAPA Ltd. Design Solutions Entity, Development Eero Kahva</b></p> <p>NAPA Designer と classic NAPA における新たな開発について、詳しくご紹介します。NAPA Designer では、トリム計算や区画モデリングに関して、日々の業務をより効率的にするための多くの機能が追加されました。たとえば、グレンスタビリティ、縦強度包絡線の生成、1 区画浸水などが挙げられます。また、classic NAPA においても、Statutory Compliance Manager での新しいグレンコード改正対応、風力推進装置に関する基準、パラメトリックローリングに関するポーラーチャートなど、さまざまな機能が追加されました。</p>
13:50	<p><b>NAPA Showroom</b></p> <p>「NAPA Showroom」とは、NAPA の新機能や開発中機能の体験、及び NAPA 開発へのフィードバック等をして頂くための特設イベントです。様々なスタンドへ自由にご参加いただけます。イベントの詳細は本プログラム 8 枚目をご覧ください。</p>
14:50 ~ 15:10 休憩	
15:10	<p><b>「NAPA LC SDK」を利用した積付計算機のご紹介</b></p> <p><b>株式会社エクサ エンタープライズ開発本部・Smart ファクトリー開発部 第 1 開発室 担当課長 鈴野雄太 様</b> <b>株式会社スマートデザイン 取締役社長 南 康雄 様</b> <b>NAPA Japan 株式会社 遥山 誠</b></p> <p>NAPA、EXA、SDC は、設計段階における積付計算業務の効率化と標準化を目的に、標準インターフェース「NAPA LC SDK」を共同開発しました。本講演では、NAPA より設計 NAPA3D モデルと連携可能な計算エンジンの概要を、EXA と SDC より同 SDK を統合した新たな積付計算機の開発事例をご紹介します。</p>
	<p><b>統合的な船型開発 ~NAPA を活用した形状から性能までの一貫設計~ (英語講演・和訳付き)</b></p> <p><b>NAPA Ltd. Design Solutions Entity, Product Owner Antti Pösö</b></p> <p>本講演では、NAPA Designer、NAPA Engineer、NAPA Operational Simulation を活用し、船型開発から設計性能・運用性の検証までをシームレスに行う方法をご紹介します。</p>
16:30	<p><b>閉会挨拶</b></p>
16:40 終了 ※1	

※1 セミナー閉会後の 1 時間程度、会場にてカスタマーサービス対応デスクを設置致します。  
普段お使いになっている際の疑問点やお困りになっていることなどを NAPA スタッフにお気軽にお尋ねください。



## プログラム概要 (2日目)

### 分野別ワークショップ<sup>o</sup> B (構造関連) 会場: 5F ROYAL BALL ROOM

10:00

#### セミナー2 日目のご案内

#### NAPA-PrimeShip-HULL 連携機能の最新状況および改正 C 編適用船における連携機能の活用事例について

一般財団法人 日本海事協会 デジタルトランスフォーメーションセンター 大田黒 哲哉 様  
株式会社白杵造船所 設計本部 船体設計部 船殻設計課 主事 石黒 雄己 様

本講演は、日本海事協会および白杵造船所による共同発表となります。前半では、日本海事協会より、鋼船規則 C 編に対応した「NAPA-PrimeShip-HULL 連携機能」の最新の開発状況と各社における連携機能の利用実態に関するアンケート結果をご紹介します。後半では、白杵造船所より、DAY1“技術のすゝめ@白杵造船所”を踏まえた上で、弊社の NAPA Designer をコアとした 3 次元設計のうち、改正 C 編適用船の基本設計における実現状況やデータ連携機能の工数削減効果、実務上浮上した諸課題等についてご紹介いたします。

#### NAPA Steel モデルからどのような利益が得られるのか

NAPA Japan 株式会社 青木 一紀

現在、世界中の NAPA Steel ユーザーの方が、日々 NAPA Designer で 3 次元構造モデルを作成しています。皆が何のために NAPA Steel モデルを作成するのか。それは、NAPA Steel モデルから様々な利益が得られることに価値を感じているからに他なりません。本講演では、NAPA Steel モデルからどのような利益が得られるのかを改めて整理して紹介します。皆様がかこれまで気づかなかった新しい利益に触れ、さらに新しい利益の可能性を発見するきっかけとなるような内容を紹介します。

### 11:20 ~ 12:30 昼休憩 (各自)

12:30

#### NAPA Steel の新機能紹介

NAPA Japan 株式会社 林 普生  
NAPA Ltd. NAPA Ltd. Design Solutions Entity, Development Matti Raski

NAPA Steel では、ユーザーの皆様からのフィードバックを基に、モデル作成機能や図面作成機能などを継続的に改良しています。本講演では、NAPA Steel の最新機能を実際の使用例とともにご紹介します。

#### NAPA FEA(Alpha 版)機能の活用に向けた実践的検証の報告

株式会社大島造船所 設計部 構造設計課 山口 大貴 様

NAPA Designer に試験実装された FEA(Alpha 版)機能を対象に、将来の実践的活用を見据え、Parametric Object 機能で作成した係船装置モデルを用い、モデル作成からメッシング、解析・評価までを一貫して実施可能かを検証し、設計効率化への有効性と課題を確認しました。本講演では、その検証結果と得られた知見、フィードバックを共有します。



## プログラム概要 (2日目 続き)

分野別ワークショップ B (構造関連) 会場: 5F ROYAL BALL ROOM	
	<p><b>C# Script で設計業務を加速する</b></p> <p style="text-align: right;"><b>NAPA Japan 株式会社 梶岡 尚輝</b></p> <p>NAPA Steel を用いたモデリング作業などを進める中で、「もっと効率的に処理できたら」「作業を自動化できたら」と感じたことはありませんか？本講演では、NAPA Designer に組み込まれている C# Script 機能を活用することで、そうした作業を効率化し、ユーザー様ご自身で業務を最適化する“道具”を作る可能性についてご紹介します。具体的なコード例なども可能な範囲でご紹介しながら、スクリプト活用のヒントや考え方をお伝えします。これから業務への導入を検討される方にとって、第一歩となる内容を目指します。</p>
13:50	<p><b>NAPA Showroom</b></p> <p>「NAPA Showroom」とは、NAPA の新機能や開発中機能の体験、及び NAPA 開発へのフィードバック等をして頂くための特設イベントです。様々なスタンドへ自由にご参加いただけます。イベントの詳細は本プログラム 8 枚目をご覧ください。</p>
14:50 ~ 15:10 休憩	
15:10	<p><b>NAPA 3D インターフェースの最新情報 (OCX、AVEVA MARINE 連携、CADMATIC-Hull 連携) (英語講演・和訳付き)</b></p> <p style="text-align: center;"><b>NAPA Ltd. Design Solutions Entity, Director, Services, Tapio Seppälä</b></p> <p>NAPA Designer で作成した 3 次元構造モデルは、他のソフトとつながることで NAPA 単体よりもさらに価値を生み出すことができます。現在、より詳細な NAPA Steel モデル作成ができるようにする開発と並行して、生産設計へより高品質に連携できるようにする開発も進められています。本講演では、AVEVA MARINE と CADMATIC HULL の 2 つの生産設計ソフトへの連携機能の最新状況を紹介します。また、船級承認用などで近年存在感が高まっている OCX についても、最新情報を紹介致します。</p>
	<p><b>NAPA モデルと生産シミュレーションの連携：設計初期段階における生産性評価</b></p> <p style="text-align: center;"><b>国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 構造・産業システム系 主任研究員 谷口 智之 様</b></p> <p>本講演では、設計の初期段階から造船の生産性を緻密に評価する取組みについて紹介します。現実的な生産シミュレーションを可能にするため、3D モデルを迅速に開発することの必要性を述べ、作業手順や配置などの建造における重要な要素を最適化する方法について検討します。NAPA Steel の船体モデルと建造シミュレータを効果的に連携させることにより、初期計画段階においても生産性を正確に評価できると考えます。このアプローチでは、リードタイム、労働力、および全体的なコストの削減と、高品質な船舶の提供が実現できることを目指しています。</p>
16:30	<p><b>閉会挨拶</b></p>
16:40 終了 ※1	

※1 セミナー閉会後の 1 時間程度、会場にてカスタマーサービス対応デスクを設置致します。  
普段お使いになっている際の疑問点やお困りになっていることなどを NAPA スタッフにお気軽にお尋ねください。



## NAPA Showroom

「NAPA Showroom」とは、NAPA の新機能や開発中機能の体験、及び NAPA 開発へのフィードバック等をして頂くための特設イベントです。様々なスタンドへ自由にご参加頂けます。

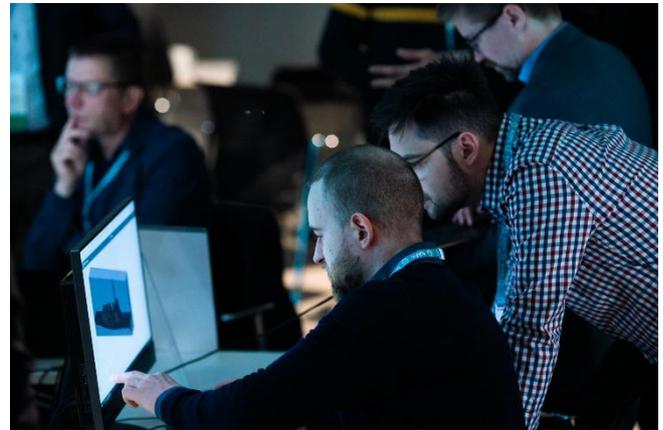
是非 NAPA の現在と未来を体験下さい。

### 復原性/流体関連

- Operational Simulation – 設計者向け運航シミュレータ
- NAPA Designer における積み付け定義機能
- NAPA Engineer – 船舶設計の新しいツール
- NAPA Designer – より柔軟な区画定義機能の提案
- NAPA Studios – 業界横断的なパートナーシップの促進
- 「NAPA LC SDK」を利用した積付計算機のご紹介
- フィードバック – NAPA へのご意見箱、是非ご意見をお寄せください

### 構造関連

- NAPA Steel の新機能
- NAPA Designer の FEM 機能
- NAPA Steel モデルから得られる利益を体験
- Shout Box – NAPA Steel モデルから得られる利益のアイデア



## セミナー及び懇親会 会場

- 会場名 : オリエンタルホテル神戸 (セミナー会場 : 5,6 階、懇親会会場 : 4 階)
- 住所 : 兵庫県神戸市中央区京町 25
- 電話 : 078-326-1500
- 会場 Website : <https://www.orientalhotel.jp/>

